

# わかすげ

題字 院長 神 雅彦



題 野辺地病院 山田 芳松・作

わかすげの由来：菅（すげ）は、繁殖力の強い植物で、古来から当地域には、菅笠、菅畳、菅枕等々生活に欠かせない貴重なものであった。

当院の看護師寮に「わかすげ寮」と名づけられているように、将来に期待される力強さと若い菅（職員）が地域医療の確保に一層努力することから。

## 基本理念

- ・患者さんの意思を尊重し、  
信頼される医療を提供します。
- ・研鑽に励み、質の高い医療を提供します。
- ・保健・福祉と連携し、  
心あたたまる医療を提供します。

## 巻頭言

### 病院機能評価

副院長

小田 得三



「患者が病院を選ぶ時代」になったと言われているが、まだまだ患者には病院の情報が届いていない。質のよい病院を選ぶ手段としては「口コミの情報」というのが一般的である。財団法人日本医療機能評価機構の第三者による医療機能の評価と認定書の取得は、これから病院として生きていく上で必要であるとの前院長の発案で「病院機能評価準備ワーキンググループ」が発足し、実際の活動が始まって約1年半が過ぎました。

当初の目標は今年中に訪問審査を受け、12月に認定通知を受ける予定でしたが、いろいろ問題があり大幅に遅れ、来年中には是非認定を受けられるよう検討を重ねているところです。

評価の対象は①病院の理念と組織的基盤 ②地域ニーズの反映 ③診療の質の確保 ④看護の適切な提供 ⑤患者の満足と安心 ⑥病院運営管理の合理性の6領域に分類されています。9月に各部門の検討がほぼ終了したところですが、まだまだ問題があります。例えば⑥は患者を尊重すること、プライバシーや利便性への配慮、サービスの改善の努力や患者の安全性への配慮などの評価ですが、ハードの最大のネックと思われた売店は紆余曲折の末ようやく9月に新装開店し、清潔感、利便性は増したと思われませんが、やっと普通のレベルになった段階なのです。プライバシーに関して、婦人科を例にとると、外来での問診は構造上他の患者に筒抜け、病棟では妊産婦と内科患者の同室による双方のアメニティの侵害は患者アンケートでよく目にするところです。医療の抜本改革の名の下に病院の締め付けが強くなり、保険制度改定で赤字がまた増えそうな現実をみると、ハードの改善は望むべくもなく、現状はソフトの充実で補う他は無いと思われ、職員の皆さんの協力なしには達成不可能です。今後は上部組織である経営改善委員会に問題点を審議してもらおう予定です。はたして来年認定書というクリスマスプレゼントは届くのでしょうか。

### 基本方針

公立野辺地病院は、北部上北の中核病院として地域住民の医療ニーズに応えるため、次の基本方針を定めます。

1. 患者に対し十分なインフォームド・コンセントを図り、信頼と満足が得られる医療を提供する病院
2. 医療のスタッフとして技術と感性を磨き、より高度な医療を提供する病院
3. 療養病棟の活用と検診業務の推進を図り、地域住民の期待に応える医療を提供する病院
4. 業務改善の推進を図り、患者に快適な医療を提供する病院
5. 経営改善を推進し、健全経営に努め地域医療ニーズに応える医療を提供する病院

公立野辺地病院

### 患者の権利と責任

～より良い医療の提供～

公立野辺地病院では、患者さんの権利を大切にしたい医療を目標として努力いたします。

私たちは、患者さんと意思の疎通を図り、信頼関係を築き、より良い医療の提供に取り組んでまいります

- 患者さんには、医療内容について医師から十分な説明を受け、納得・同意した上で医療を受ける権利があります。
  - 患者さんには、自分のプライバシーを尊重される権利があります。
  - 患者さんには、医師その他の医療スタッフと力を合わせ、医療に参加・協力する責任があります。
- 患者さんの権利についてのご意見などお気づきの点がありましたら、どのようなことでも遠慮なく医師、看護師その他の職員にお申し出下さい。

投書箱を正面玄関入り口に設置しておりますのでご利用ください。

公立野辺地病院

# 外国紀行

## トルコ周遊記

脳神経外科  
中野 高広



今年6月、日韓で開催されたワールドカップで勝ち進んできた日本チームだったが、4回戦で残念ながらトルコに敗れてしまった。そのトルコにワールドカップの最中、飛んだ。イスタンブールで開催される国際頭痛学会出席のためである。同行するのは大学のO先生。

イスタンブールは人種のるつぼである。そして皆商魂たくましい。街を歩いていると物売りが寄って来る。決まってジャパニーズ?チャイニーズ?と聞いてくる。ここではチャイニーズと答えるのが正解である。日本人は金を持っている上にお人好しときているので、ジャパニーズと知ると必ずボラする。逆に中国人はこすっからいと思われているので絶対吹っかけてこない(同じような事がエジプトに行った時にも言えた。ただし、この時の質問はトーキョー?オーサカ?で、オーサカと答えるのが同じ理由で正解であった)。この秘密を知ってからというもの、わがO先生はことごとく「自分はモンゴル人である」と答えていた。そうすると皆、蜘蛛の子を散らすように引いていったそうである。

それにしても、トルコ人のサッカー熱は相当なものである。タクシーの運転手などもラジオを聞きながら、しばしば両手でガッツポーズをとっている。こちらはハンドルは大丈夫なんだろうかと気が気ではなかった。国民拳げての、といった表現が適切であろう。日本チームが負けて当然である。この時はちょうど韓国チームが大活躍している時で、準決勝の韓国・ドイツ戦の日など、すれ違うトルコ人たちがことごとく「アンニョハセヨ」と、声をかけて来る。この人たちは、ほんとにサッカーのことしか考えてないんだな、と思った。「日本人だ」というと哀れみの目で見られた。

ところで、トルコ料理というのはフランス、中華料理とならんで世界の三大料理だそうである。羊肉を串に刺したシシケバブ(言うなれば焼き鳥の羊番である)が有名で、私はもっぱらこればかり食べていた。トルコのお酒は、ラキという甘いリキュール系で、水で割ると白く濁り、カルピスみたいである。これらを頂きながら、ベリーダンスを鑑賞するのが、トルコの夜の定番である。昼の定番はモスク巡りである。内部は丸く高い天井に、きれいなランプがぶら下がり、荘厳である。なんとなくお寺の本堂に似てなくもない。教会もそうであるが、宗教の演出する空間というのは、基本は共通するのかもしれない。モスクを渡り歩いていると、必ず声をかけてくるのが絨毯売りである。無視していると、「何も喋ってくれないのね。私がせっかく話し掛けているのに」などと言ってくる。その変な日本語があやしいのである。しかしそのあやしさがトルコの魅力かもしれない。アジアとヨーロッパの出会う国トルコに、あなたも一度行かれてみては?

# OB便り

## 思い出

元総婦長  
勝田 トミ



私は、昭和36年7月から56年12月まで、公立野辺地病院へ勤務させて頂き、お三人の院長先生にお仕え申して帰郷しました。

着任した時、看護部門は看護助手を含め30人の人員でした。一般病床144・結核病床60・急性伝染床20の計224床、4病棟の構成でした。看護師は一日勤務をして引き続き病棟当直へ、結核病棟当直者が外来当直兼務の体制で、翌日も一日勤務の状態でした。私は看護師の健康管理を重視して、斉藤茂院長先生へ当直明けの午後休みを進言し、実施へ踏み切りました。間もなくして、助産師の浜田ちえさん(当時49歳)が「子宮癌」で青森県立中央病院へ入院、昭和52年遂に不帰の客となり、助産師が洞内タケさん1人となり、24時間拘束されるという最悪の事態に直面し、夜も眠れぬ身を切られるような苦悩の連日でした。看護師不足は勿論のこと如何にして助産師を確保するか。その時、松尾事務長さんから六ヶ所村開拓地に酪農に従事している助産師有資格者が居ることを聞き、早速院内業務を後回しにして、一日がかりで倉内部落まで必至の思いで馳せ参じ、漸くその家を探し当て本人とお逢いして「赤ちゃんを取り上げてくれるだけでよいから」と、藁をも掴む思いで懇願しました。長年助産業務を休業しているので自信がないと言う事でしたが、三拝九拝協力方要請して、承諾頂いたのが石川とみよさん(現在79歳)でした。僻地と言われた遠い六ヶ所村から雨の日、風雪の日も遅刻することなく、忠実に使命感に燃えた快活なお人柄は、患者さんからも好感を持たれ、よく協力していただきました。その石川さんから平成12年7月、六ヶ所村文化協会読書愛好会発刊、「六ヶ所村女性たちの発信」第5巻が贈られ高齢者から中心的存在として、今尚活躍されて居られるお手紙を頂き、深い感銘を受けました。去る9月初旬には、第7巻が届き、人間のたゆまぬ素晴らしい偉大なる御協力が窺われ、感服し乍ら拝読しました。

豪雪の年に、僻地巡回診療で水木先生と「雪上車」へ初めて乗車して、六ヶ所村のあちこちを廻り、その時の物凄い震動に揺られ体がどうにかなりそうで、流石にこたえましたこと等、思い出は盡きません。数年前に野辺地病院へ立寄る機会に恵まれ、瀬川フミさんに案内して頂き、院内見学をして、今昔の感一入なるものがございました。遠い昔激動に堪え、全力投球一致協力して未熟な私を支えてくれ、医療事故無く、遅まき乍ら辛うじて三交替制のルールを敷いて、後進に道を譲り、任務の一端を果し定年前に帰郷出来たことを、改めて関係者の皆様へ深甚なる誠意を表したいと存じます。私の人生に於て、貴重な体験をさせて頂き、忘れられない病院として、今でも印象深く心の奥底に残るもの多々ございます。

北部上北地域の中核病院として、神院長先生をお始め、職員の皆様の限りない御健康と御発展を御祈念申し上げます。



## 職場紹介

### 地域医療科

保健師 高村 悦子

広報紙『わかすげ』2号発行の職場紹介へ、地域医療科が選ばれたことを光栄に思います。当科は中央棟2階の一角に位置しており「検診センター」とも呼ばれ、地域保健活動と地域医療活動の二本立てで業務を遂行しています。



1. 地域保健活動では、一般健康診断をはじめ労働衛生に関わる健康診断、日帰り・宿泊人間ドック及び脳ドック、生活習慣予防健康診断などを実施しています。平成13年度の実績では、3,590人の方が健康診断を受けられました。地域保健活動における当科のモットーは、安全かつ円滑にサービスを受けられるようにすることです。そのために待合室を設けて、待ち時間をテレビ鑑賞や新聞・雑誌などで過ごして頂いています。また、健康診断を受けて頂く都合上、絶食で来られるため、終了後に自由にくつろいで頂くように、お茶のサービスも開始しました。宿泊ドックでは、栄養科と検討して食事に力を入れて利用者に満足して頂いております。

2. 地域医療活動としては、訪問看護と訪問診察を実施しています。特に訪問看護は昭和58年の老人保健法施行と共に開始され、まもなく20年目を迎えようとしています。特徴としては、医師による訪問診察や、薬剤師による訪問薬剤指導を受けながらの在宅療養ができて、患者様や家族の方が安心して在宅療養を継続できるように支援しています。活動範囲は野辺地町内から横浜町、六ヶ所村、天間林村等。訪問看護車第2号のマツダファミリアで、日々看護サービスを提供しております。現在利用者の平均年齢は81歳、8割の方が医療器具を装着していますが、元気で私達の訪問を心待ちに下さっています。地域医療科のスタッフは、医師1名・看護長1名・保健師1名・事務主幹1名ですが、院内いろいろな関係部署の協力のもとに業務が成り立っています。

ご自分の健康度チェックに健康診断を受けてみませんか？個人でも団体でも大歓迎です。スタッフ一同両手を広げてお待ちしております。尚、詳細は「検診センター」までお問い合わせ下さい。今後も野辺地病院の職員として、少しでも地域の方へ貢献できるように努めていきたいと思っております。



### 南1階病棟 看護師 小林 宏美

南1階病棟は、主に整形外科と口腔外科の患者様が入院しています。患者様の年齢層も幼児から90才代までと幅広く、また病棟内で自主的にリハビリを行う患者様も多く、明るく活気のある病棟です。

患者様を治療する医師達もなかなかの強者。整形の相澤先生は、内科での臨床経験を持ち、また患者様の話に耳を傾ける姿勢は、大変評判が良く信頼されています。板橋先生は多忙な業務をサクサクとこなす強靱なバイタリティーの持ち主（一応新婚さん）。二人共患者様中心の治療を心がけているようです。口腔外科の古川先生は、気さくな感じで、虫歯治療から手術までと、幅広く活躍する患者様思いの優しい先生です。

看護スタッフは、明るく個性豊かな、お姉様方がいっぱい。優しいお姉様方に囲まれて、男性二人は、日々楽しく仕事をしています（笑）。君成田看護長は副総看護長と兼任し、多忙ながらも患者様の状況をよく把握し、その明るくおおらかな性格から、患者様・家族の方から大変頼りにされています。

私達は、「出来ることは自分で、出来ないことは援助を」を基本にして、「患者様の自立」を中心にケアを行っています。高齢の患者様が多く、なかなか思うようにはいきませんが、それでも患者様が自分の足で歩けるように身の回りの事はある程度行えるよう、できるだけ受傷前に近い状態で退院を迎えてほしいという思いからです。時には「冷たい、いじわるだ」等々言われますが、本当に患者様のためになるよう援助をしています。

直接手をかけず見守ることで、時間がかかり多忙となりますが、スタッフ間に笑顔があり、明るく働けることで心にもゆとりができ、それを患者様へのケアに反映できるととても楽しい病棟です。また、患者様が笑顔で退院していくことを励みに、日々の業務をがんばっております。

# 療養病棟

## 敬老の日おめでとう!

9月13日、療養病棟において、ささやかながら、敬老の日を祝う会が開かれました。職員たちの歌や踊りに、入院されている皆様も、手拍子足拍子で、楽しいひと時をすごしました。



### ボランティア ありがとうございます!



(夏はぜ)

先日、ある患者さんから「整形を受診に来て、腰痛で立っても座ってもいられないほどつらいときに、辺りを見たら絵画や書などが展示されていたので、見て回っている内にしばしの間痛みを忘れることができました。とてもよい企画だと思いますので、これからも続けて下さい」という、嬉しいお便りをいただきました。

これもひとえに、作品展示にご協力いただいております、たくさんの方々のおかげと、深く感謝を申し上げます。4階病棟の廊下にもたくさんのちぎり絵が展示されておりますので、ぜひご覧下さい。また、中央棟2階処置室前に、下町の長者久保政雄さんが、丹精込めて育てた、さぎ草や夏はぜ等の見事な盆栽を毎回一つずつ展示して下さっております。「皆さんに喜んでもらえれば、うれしい」とのことですので、どうぞご覧下さい。



### 1日ふれあい看護体験



7月26日の看護の日に、高校3年生18名が1日看護師さんを体験しました。

### 8月23日

#### 売店新装オープン!



営業時間 7:30~18:00(平日)

8:00~17:00(土日祝日)

### 原稿募集のお知らせ

「わかすげ」編集局では、広く読者の皆様から原稿を募集します。病院に対するご意見、ご感想、詩、俳句、短歌など、ご応募お待ちしております。

### 編集後記

十五夜の月が皓々と地上を照らしている。カーテンの隙間からさし込むまばゆい光に誘われ、思わず夜空を見上げると、白い月は心なしか悲しげに見えた。日本中に衝撃をもたらした、北朝鮮の拉致問題、計り知れない家族の怒りと悲しみ。一日も早い解決を望むと同時に、二度と起こらないことをただ願うばかりである。

「わかすげ」2号発刊にあたり、お忙しい中、原稿をお寄せ下さった皆様、本当にありがとうございました。

(平成14年9月記)

### 編集委員

- 相澤 治孝(医局)
- 敦賀 俊彦(検査科)
- 阿部 俊郎(薬剤科)
- 前田 ひとみ(看護局)
- 四戸 巧(管理課)



平成14年10月28日発行

広報「わかすげ」第2号

発行：北部上北広域事務組合

公立野辺地病院

〒039-3141

青森県上北郡野辺地町字鳴沢9-12